

70 節分

「鬼は外、福は内」今夜は多くのご家庭で節分の豆まきをされることではないでしょうか、我が家でも娘たちが小さいときは、豆まきをしていました。もったいないので豆は小袋に入ったままいて、あとでしっかりいただけるようにしていました。



昔から日本人と鬼は非常に深い関係にあったように思われます。

「鬼ごっこ」の鬼はみんなを追いかけまわします。桃太郎の鬼は、人々を苦しませていました。一寸法師のお話に出てくる鬼も都を荒らしまわる存在でした。これらの鬼はどちらかといえば悪い・怖いといったイメージです。また鬼には強い・大きいといったイメージもあります。「鬼に金棒」「鬼のように〇〇」等々。さらにはそのイメージとのギャップから優しさ・守護などを表現したものまであります。「泣いた赤鬼」「鬼の目にも涙」。鬼、摩訶不思議な存在であるにもかかわらず、これだけ私たちの生活に様々な形で入り込んでいるのですね。

節分は読んで字のごとく季節の分かれ目です。春になる前に、それまでのマイナス（鬼と思われる）を取り払い、まさに来る新しい季節にはプラス（福と思われる）を取り込むという願いが形になったものだと考えます。

子どもたちと交わした 3 つの約束。その中でも特に豆まきに関係が深いといえば、心の鬼を追い出し優しい豊かな心を育むために、「いじめをしない、させない、許さない」という約束です。釜利谷小学校が子どもたちにとって、安心・安全な学びの場であってほしいという願いをこめて、ウェブ上ではありますが、僭越ながら叫ばせていただきます。

鬼は外 福は内